



令和 8 年 3 月 1 日 発行
発行人 中 川 英 二
編集人 五 味 律 子
進 藤 真 美
馬 場 美 里
川 上 峻 平
前 島 誠

事務所 山梨県立中央病院
〒400-8506 甲府市富士見 1-1-1
☎ 055-253-7111 FAX 055-253-9923 🌐 : <http://riringi.jp>

No.469

【お知らせ】

令和 7 年度 第 2 回定時総会のお知らせ

【日 時】令和 8 年 3 月 15 日（日）10：00～

（受付時間：9：30～9：50）

【会 場】山梨大学医学部附属病院 臨床小講堂

※欠席される方は委任状もしくは議決権行使書のどちらかを
3月10日（火）必着で事務局へ提出してください
※議案書及び委任状・議決権行使書は後日配布します

生活習慣病検診従事者講習会の開催について

「肺がん検診従事者講習会」（受講申込締切：令和 8 年 3 月 2 日）

【日 時】令和 8 年 3 月 5 日（木）18：30 ～ 20：00（質疑応答を含む）

【場 所】山梨県医師会館 1階 講堂（会場参加・Web 配信併用）

【演 題】「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン 2025 年版と後の肺がん検診」

【講 師】国立がん研究センター 中山 富雄 先生

【申込方法】

- ① 2次元コードより申し込み
- ② 山梨県医師会ホームページより申し込み
<https://forms.gle/yaZyLJxaQKJCFZKXA>
- ③ FAX にて送付



「循環器疾患等検診従事者講習会」(受講申込締切：令和8年3月23日)

【日 時】令和8年3月30日(月) 18:30～20:00(質疑応答を含む)

【場 所】山梨県医師会館 1階 多目的エリア(会場参加・Web配信併用)

【演 題】「動脈硬化性心疾患のリスク管理」

【講 師】山梨大学医学部循環器内科 准教授 中村 貴光 先生

【申込方法】

- ① 2次元コードより申し込み
- ② 山梨県医師会ホームページより申し込み
<https://forms.gle/PME1ERWxPXZiW5Wh6>
- ③ FAXにて送付



令和7年度肝疾患診療連携拠点病院 医療従事者講習会(WEB)の開催について

【日 時】令和8年3月5日(木) 18:30～19:30

【開催方法】WEB(Zoom)にて開催

【講演内容】「肝臓に対する放射線治療」

山梨大学医学部附属病院 放射線治療学 小宮山 貴史

「肝炎対策の進歩状況について」

山梨県福祉保健部感染症対策センター 内田 祐太

※内容につきましては多少変更と異なる場合がございます。

【申込方法】別紙チラシをご参照ください。

【申込締切日】令和8年3月3日(火)

※お申込みいただきました方には、別途参加方法についてご案内いたします。



肝疾患診療連携拠点病院

令和7年度 医療従事者研修会

日時：令和8年**3月5日**（木）**18:30~19:30**
WEB配信

講演1：「肝癌に対する放射線治療」

山梨大学医学部附属病院 放射線治療学

小宮山 貴史

講演2：「肝炎対策の進捗状況について」

山梨県福祉保健部感染症対策センター

内田 祐太

事前申込み締め切り日 令和8年3月3日（火）

【事前申込の方法】

下記URLまたはQRコードからお申込みください。

<https://forms.gle/bD6dgfQX8SefGDuJ6>



＜申込時の注意点＞

申込みいただきました方には、メールで参加方法のご案内をいたしますので、メールアドレスはお間違いのないよう、ご確認の上、お申込みをお願いいたします。

主催：山梨大学医学部附属病院 肝疾患センター
山梨県中央市下河東1110番地

遺伝子検査研究班研修会

【開催日時】2026年3月24日（土）19：00～20：30

【会場】山梨大学医学部キャンパス シミックプラザ2階多目的室2

【日臨技事前参加申込】無

【参加費】会員：無料 非会員：3000円

【内容】演題名：PCR検査の基礎（仮）

講師名：未定（ビオメリュー・ジャパン）

【生涯教育点数】専門：20点

超音波検査研究班研修会

【開催日時】2026年3月28日（土）14：00～16：00

【会場】山梨大学医学部キャンパス 臨床講義棟小講堂

【日臨技事前参加申込】有

【参加費】会員：無料

【内容】演題名：エキスパートに学ぼう 山梨県心エコーセミナー

講師名：塩川則子先生（聖マリアンナ医科大学病院 超音波センター）

【生涯教育点数】専門：20点

【その他】フィリップスより配布されるチラシのQRコードにて申し込みになります。



エキスパートに学ぼう

山梨県 心エコーセミナー

見落とさない弁膜症評価のポイント(AS, MR)

生涯教育点数 専門20点

参加費
無料

開催

2026年 3月28日(土) 14:00~16:00 (開場13:40)

会場

山梨大学医学部キャンパス 臨床講義棟小講堂

(所在地: 山梨県中央市下河東1110)

演者

塩川則子先生 臨床検査技師

(聖マリアンナ医科大学病院 超音波センター)

座長

中村和人先生 特任講師

(山梨大学医学部 循環器内科 地域医療学・総合診療学講座)

内容

装置紹介、講演、デモンストレーション予定しております

参加を希望する方は、事前申込が必要です。

申込方法

右図 QRコードを読み込んでいただき事前申込をお願いします。
登録が正常に行われた場合は、登録時に入力していただくメールアドレス宛に、
後日申し込み完了メールを配信します。
メールが届かない場合は、お問い合わせ先にご連絡いただきますようお願いいたします。



会場定員：50名 申込期限：3月21日

☎お問い合わせ先：080-8849-2926 (株式会社エム・イー 保坂)

主催：株式会社エム・イー / 共催：株式会社フィリップス・ジャパン西関東ブロック
協賛：山梨県臨床検査技師会

山梨県医師会精度管理調査 臨床化学部門報告会のご案内

この度、山梨県医師会精度管理調査 臨床化学部門報告会を下記の要領にて開催する運びとなりました。昨年実施されました県医師会精度管理調査について、項目・方法別集計、また評価基準等について講演いたします。データ・基準範囲共有化にむけて、ぜひご参加ください。

なお、報告会終了後に意見交換会を行います。意見交換会にご参加される方は、下記メールアドレスまでお申込みをお願いいたします。多くの会員皆様のご参加をお待ちしております。

【日 時】令和 8 年 4 月 17 日（金）18：30～

【場 所】JCHO 山梨病院 2 階会議室

【参加費】技師会員・賛助会員/無料 非会員/1,000 円（資料集代として）

【内 容】第 39 回（令和 7 年度）山梨県医師会臨床検査精度管理調査 臨床化学部門報告会
講師：山梨厚生病院 臨床検査室 道林 智之 技師

～ 意見交換会 ～

【会 場】くいもの屋わん甲府店

【参加費】4,000 円（多少前後する場合がございますが、あらかじめご了承ください。）

【申込期日】4 月 3 日（木）までにご氏名、ご施設名をご連絡ください。

山梨県立中央病院 検査部 河西 慶

メールアドレス：kasai-bcrh@ych.pref.yamanashi.jp

【ご報告】

令和 7 年度 第 8 回定例部局長会議 議事録

日時：令和 8 年 1 月 15 日（木）18：30～20：30

場所：山梨県立中央病院 2F 第 2 会議室

開会の言葉

河合副会長の挨拶にて、18：30 より開会。

新年が明けました。今年もよろしくお願ひします。1 月は学術講習会や検査フォーラムがあります。

参加・協力よろしくお願ひいたします。

会長あいさつ

- ・検査フォーラムに 6 月より新会長となる予定の長沢会長が来賓予定です。
- ・今後、一都八県の会長会議が開催され新体制等についても話し合う予定。進捗があり次第報告します。
- ・梨臨技会長選に立候補者はいなかったため、推薦委員会が立ち上げられました。新体制になってもご協力をお願ひします。

議題

(1) 渉外部より

●検査と健康展について *松山渉外部長より

第6回渉外部会議および第3回公益事業委員会 議事録を元に検査と健康展での反省点や次回に生かしたい点などについて報告された。

●輸血キャンペーンについて *堀田渉外副部長より

日時：2026年2月8日 10:00～16:00

会場：イオンモール甲府昭和店さくら東入口

→上記日程で開催されます。参加・輸血へのご協力をお願いします。

(2) 広報部より *五味広報部長より

●梨臨技ニュースについて

・今月は20日が〆切になります。掲載したい情報がある場合は早めをお願いします。

(3) 情報管理部より *古屋情報管理部長より

●リースPCについて

PC4台のリース契約が完了したことを報告された。

(4) 学術部より *杉浦学術部長より

●山梨県精度管理専門委員候補者の推薦について *杉浦学術部長より

衛生検査所における検査結果の制度確保のため立ち入り調査を行う。今まで精度管理委員の先生がいたが辞退されたため、梨臨技より候補者を一名推薦してほしいと依頼がきた。

→精度管理関係であることから梨臨技の精度管理委員長が挙げられた。

●検査フォーラムについて *河合副会長より

日時：2026年1月24、25日

会場：ホテル春日居

→当日のスケジュールや企画の予算について報告・確認を行った。

(5) 組織部より *古屋組織部長より

●タスクシフトについて

日時：2026年2月23日(月)

会場：山梨県立大学池田キャンパス

→今回が県内で開催される最後の講習となる。他県からの参加者も数名いる。

担当になっている方はご協力お願いいたします。

●若梨部研修会について

日時：2026年2月28日（土）15:30～19:30

会場：甲府共立病院

→参加人数がまだ少ないため、対象者がいる施設は参加の呼びかけをお願いします。

(6) 事務局より

●山梨県輸血研究会 後援依頼について *前島事務局長より

日時：2026年2月14日 14時～

場所：山梨大学医学部 臨床講義棟小講堂

→後援依頼が届いたことを報告された。承認された。

●総会について *前島事務局長より

日時:2026年3月15日（日）10:00～

会場:山梨大学医学部 臨床講義棟小講堂

→山梨県立中央病院での開催を検討していたが会場を予約できなかつたため、今回は山梨大学で開催することとした。

●人材育成研修会について *内藤会計部長より

人材育成研修会参加者に研修会参加前にお金を渡してもよいか確認したい。

→後日、領収書渡してもらうことで、前もって旅費を支払ってもよいとされた。

●来年度予算について *内藤会計部長より

毎年、予算案の金額が収入の額を超えている。実際に決算した際も超えてしまっているため、毎年繰越金が減ってきている。今後の予算の組み立て方を検討した方がいい。

→来年度の予算案について、現状のままでは運用が困難になることが予想される。

各部局は削減できる箇所がないか予算書の見直しを行い、1月中旬に事務局までメールをする。

(7) その他

●検査フォーラム・災害訓練について *河合副会長、古屋組織部長より

当日の運営や必要物品の確認などを行った。また、ほかに必要なものがないか洗い出し、当日までに準備を進めるようにする。

●賛助会員メーリングリストについて *渡邊庶務部長より

会報のお知らせを各賛助会員へメールで知らせるためにメーリングリストの作成を検討したい。

→賛助会員は現在50社ある。また賛助会員は毎年担当が変更する会社もあり、年に一度メーリングリストを変更する必要がある。大人数によるメーリングリストの作成は困難であり、作成後も毎年リストを変更するのは手間暇がかかる。メーリングリスト以外の方法がないかを含め検討する。

●JST「共創の場形成支援プログラム」について *小川副会長より

山梨大学を中心とした新しいプロジェクトが立ち上げられ、技師会としてプロジェクトに協力できないか依頼が届いた。

→職業の斡旋のような形になってしまうので、難しいのではとの意見があった。

技師会として協力できることがないか、今一度よく検討することとした。

●支部学会決算報告について *山口副会長より

支部学会及びそれに伴う梨臨技の最終的な決算の集計が終わったので、資料を元に報告された。

●次期役員について *中川会長より

次回理事会で選挙推薦委員会の方に同席していただき、来年度役員について報告する予定となっていることを報告された。

閉会の言葉

小川副会長より閉会の言葉をいただき 20:30 に閉会となった。

支部学会は終わりましたが、1月は検査フォーラム、2月は献血キャンペーン、3月は総会とこの後もイベントや事業が続きます。大変かと思いますが、ご協力よろしくお願ひします。

学術講習会参加報告

峡南地区理事 公益財団法人 身延山病院 板倉 薫

1月17日(土)市川三郷町生涯学習センターにて、令和7年度学術講習会が峡南地区担当にて開催されました。

今年度は県立北病院 三澤 史斉先生をお招きして『治療抵抗性統合失調症の薬物治療』についてご講演をして頂きました。精神科の先生の話聞く機会はあまりないためか講演前には「全く分からない分野」という意見も聞いており心配でありましたが、県内の精神科病院の状況や統合失調症の病態説明、治療の歴史に現在の治療方法と幅広く分かり易い内容で、とても興味深くそして有意義なご講演でした。

本学術講習会を開催するにあたり、快く講師を引き受けてくださった三澤先生、相談に乗ってくださった執行部の皆様に講習会運営に協力して頂いた峡南地区の皆様、そして講習会に参加して下さった会員の皆様に深く感謝申し上げます。



第 13 回 山梨県臨床検査フォーラム 血液検査研究班研修会に参加して

(株)ジャパンメディカル 検査部 内藤 幹久

令和 8 年 1 月 24 日にホテル春日居にて開催された、第 13 回山梨臨床検査フォーラムの血液研究班による研修会に参加させていただきました。

今回は演題が 2 つあり、1 つは血液研究班班員による二級臨床検査士(血液学)を目指す人へという内容でした。実際の試験で試されるレベルのフォト問題を、自分で解く時間が設けられ、日々のルーチン検査では見ない血液細胞を改めて学ぶことができました。私は、血液学の二級臨床検査士資格は有しておりますが、とても有意義な時間になりました。

次の演題は積水メディカル株式会社学術企画グループ 服部和久先生による、凝固検査に影響を与える薬剤という内容でした。今回は 2011 年以降出てきた直接経口抗凝固薬(以下「DOAC」という)が主な話題でした。DOAC が優れた点は、ワーファリンと比較して患者毎の投与量調節は原則不要、食物の影響を受けにくい、薬物相互作用が少ない等が挙げられます。一方で、肝機能、腎機能が低下している患者様についてはより注意が必要であり、DOAC を使用したことで、症状が悪化してしまった症例もあることが分かり学びになりました。また、DOAC にも様々な種類があり、それぞれの薬剤がどのような性質を持っているかを、今回の研修会を通して知ることが出来たのは、貴重な経験となりました。今回学んだことは、日々の検査でもデータを確認し、考えながら判断することの一助になると思いました。

最後になりますが、研修会を開催して下さった血液研究班の皆様に御礼申し上げます。

第 13 回 山梨県臨床検査フォーラム 微生物班公衆衛生班合同研修会に参加して

山梨大学医学部附属病院 羽田 菜摘

1 月 24 日にホテル春日居にて開催された山梨県臨床検査フォーラム 微生物班公衆衛生班合同研修会に参加しました。

本研修会では、医療機関と行政との連携をテーマに、感染症法と行政検査の概要、感染症サーベイランス、県内における下水サーベイランスの実施状況、感染症動向調査についてご講演いただきました。保健所、県庁、衛生環境研究所が担う役割や業務内容についてお話ししていただき、行政がどのように地域の感染症対策を支えているのかを学ぶ貴重な機会となりました。

普段病院で勤務している私にとって、これらの行政機関で行われている業務の実際を詳しく知る機会ほとんどなく、医療機関とは異なる立場から地域の感染症対策を支えていることを学び、自分の視野が広がったと感じています。

今回の研修を通じて、医療機関と行政が情報を共有し、連携していくことの重要性を実感しました。

この度はこのような研修会を企画していただきありがとうございました。

第 13 回 山梨臨床検査フォーラム 超音波研究班研修会に参加して

斐崎市立病院 内藤 絵理

令和 8 年 1 月 24 日に行われた検査フォーラムの超音波研究班研修会に参加しました。

今回は「乳房超音波検査を極めよう-JABTS 乳房超音波診断ガイドラインに準じて-」をテーマに、甲府共立病院の新津 好江さんに講演していただきました。乳房超音波検査における超音波装置の設定や基本

的な考え方から、実際の症例画像を用いた所見の捉え方まで、順を追って学ぶことができました。超音波検査で乳がんを見つけるには、カテゴリ-2の所見を正しく理解し覚えることが重要であり、年齢や発生頻度といった患者情報を踏まえて評価する点が、日常業務を振り返る上で参考になりました。

また、単に所見を確認するのではなく、形状や石灰化など所見の順位を意識して判断することが、適切なカテゴリ判定に繋がるのだと感じました。

今回の研修会で得た知識や考え方を今後の業務に取り入れ、検査精度の向上に努めていきたいと思いません。

最後になりますが、講演をいただいた新津さん、超音波研究班の皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

第 13 回 山梨臨床検査フォーラム 免疫血清検査研究班企画に参加して

石和温泉病院 清水 久美子

令和 8 年 1 月 24 日にホテル春日居にて開催された山梨臨床検査フォーラムに参加しました。どれも興味のある企画の中、免疫血清検査研究班の企画に参加させていただきました。今回の企画では「肝疾患診療向上のためのアンケート結果報告」がされました。県内の現在の状況を踏まえるとともに、検査室が主体になる重要性や肝疾患コーディネーターの必要性を理解することができました。また、つぎに「甲状腺の基礎・症例報告」では改めて甲状腺の基本を学び直すことができ、症例では実際のデータやエコー画像を確認する事ができて、とても有意義な時間となりました。今回の研修を日々の業務や、今後の検査室のあり方を考える中に生かしていきたいと思いません。

最後に、お忙しい中準備して下さった研究班の皆様にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

第 13 回 山梨臨床検査フォーラム 輸血検査研究班企画に参加して

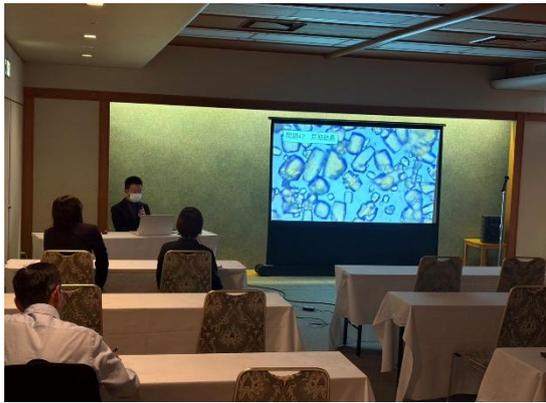
山梨大学医学部附属病院 河東 もえこ

令和 8 年 1 月 24 日にホテル春日井で行われた第 13 回山梨臨床検査フォーラムで輸血検査研究班の研修会に参加しました。

今回は前半に赤血球型検査ガイドライン改訂第 5 版について東京大学医学部附属病院の名倉豊先生にご講演いただきました。改訂のこれまでの変遷や第 5 版改訂のポイント、ガイドラインの具体的な内容などを「なぜその部分が大切か」根拠を交えながらお教えいただきました。安全な輸血を遂行する上で日常業務の中に具体的根拠を落とし込むことが大切であると改めて考えるきっかけとなりました。また追加検査が必要になった場合のポイントや考え方もお話しいただき、今後の検査業務で活かしていきたいと感じました。

後半では県内 3 施設より症例提示をいただき、座談会を行いました。他施設での検査・輸血の状況を伺いつつ、自施設ではどのような対応になるか考えながら参加できたため大変有意義な時間となりました。また自施設では実施していないプロトコルについての発表もあり、経験したことのない状況を想像する良いきっかけとなりました。最後には名倉先生にもご意見を伺いつつ活発なディスカッションが行われました。

最後になりますがこのような研修の場を設けて下さった講師の先生方ならびに輸血検査研究班の皆様にご挨拶申し上げます。



山梨県災害対策研修会に参加して

山梨県立中央病院 渋澤 正裕

災害時の避難所生活では、不活動や脱水によって静脈血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）のリスクが急増すると言われている。その予防策である弾性ストッキングの着脱と、早期発見に有用な下肢静脈エコーについての研修に参加した。

実習では、始めに下肢エコーによる血管の描出を行った。普段エコー検査に携わっていないため画面の見方から苦慮したが、避難所という限られた環境下では、その難しさがより増すことを実感した。また、予防に欠かせない弾性ストッキングの着脱では、シワを寄せずに履かせるためのコツが必要であり、被災された方の状況に合わせた柔軟な対応と、支援側の入念な準備が不可欠であると学んだ。

今回の研修を通して、支援を最大限に活かすのは、技師としての技術と、避難所のニーズに合わせた支援の両輪であると考えられた。支援者という立場で避難者に寄り添い、押し付けではない安心感を与える声掛けや配慮も、技師の大切な役割である。いつか来る「もしも」の時に、一人ひとりが過酷な現場で最善の支援を尽くせるよう、日々の研鑽と災害への備えが必要であると感じた。



献血キャンペーンに参加して

甲府中地区理事 千野 恵美

2月8日、朝から雪が降っていたにもかかわらず、会場となったイオンモールでは多くの人が行き交い、様々なイベントが開催されていました。

初めてキャンペーンに参加しましたが、賑わいの中で献血を訴え、ブースに呼び込むことの大変さを感じました。

時間が空いた時に人生初の献血も経験させていただきました。

医師や看護師の優しさに緊張もほぐれたためか、想像していたより早く規定量の血液が採取され驚きました。

献血のハードルが下がり、とても良い経験になりました。

今後も輸血を必要としている人に滞りなく製剤が届けられる様にこのような啓発活動の必要性を改めて感じました。

献血キャンペーンに参加して

峡北地区理事 仲二見 里香

2月8日日曜日に献血イベントに実務委員として携わりました。技師会の上着を着てイオンモールさくら広場にて、来客者へイベントへの呼び込みや献血会場への案内、献血後の待合場所への案内や待合で待機中の方に血管年齢測定の手伝いを行いました。来客者が少ない中での活動でしたが、通行者全員へイベント開催中であることが周知できたかと思われました。案内した献血にご協力いただいた方は、多くが定期的に献血を行っている方でした。興味はありそうだけど会場へお越し頂くまであと一步！な方が多い印象を持ちました。イベントに参加して、学生時代に献血に行ったきりだな。と自身を振り返って、技師として輸血業務で製剤を扱う機会があり、発注～納品・学術と血液センターさんにはお世話になっているのに、協力することが疎かになっていることに気づかされました。

最後に、献血イベントの開催にあたり、血液センターさん梨臨技渉外部をはじめご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。



遺伝子検査研究班 Q&A



Question

「16S rRNA 遺伝子解析」について教えてください。

Answer

16S rRNA 遺伝子解析とは、微生物の分類や同定に広く用いられる分子生物学的手法です。16S リボソーム RNA (rRNA) は、原核生物（細菌や古細菌）の小さなサブユニットに存在し、約 1500 塩基対の遺伝子配列を持ちます。この遺伝子は、進化的に保存された領域と、種特異的な変異が多く含まれる可変領域から構成されており、これらの特徴を利用して微生物の系統分類や同定を行います。

解析の流れは、まず対象とする微生物から DNA を抽出し、次に PCR を用いて 16S rRNA 遺伝子を増幅します。その後、DNA 断片をシーケンスし、得られた配列を既存のデータベース（例：NCBI の GenBank や RDP）と比較します。これにより、微生物の種や属の特定、さらには系統樹の作成が可能となります。この手法の最大の利点は、培養が難しい微生物も解析できる点にあります。従来の培養法では見つからなかった微生物も、16S rRNA 遺伝子解析によって多様性の把握や新種の発見に寄与しています。また、環境微生物学や臨床微生物学、食品微生物学など、多岐にわたる分野で応用されています。

公衆衛生研究班 Q&A

Question

山梨県でも重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者が令和 7 年 10 月に初めて確認されましたが、どのように検査をするのでしょうか。

Answer

臨床症状や行動歴（山林に入って作業をした、マダニに刺された跡がある、等）から SFTS を疑う場合、行政検査（保健所が医療機関で採取した検体を回収し、県衛生環境研究所で検査をします）での対応となります。医師から検査部門への問い合わせがある場合は、医療機関を管轄する保健所へ医師から相談するように促すか、検査部門や感染対策部門等からお問い合わせください。なお、SFTS だけではなく、同じくダニ媒介感染症である日本紅斑熱、つつが虫病の検査も可能です。実はこの検査は、今年度から県衛生環境研究所で検査ができるようになり、結果も 2 日程度で判明するようになりました。具体的な検体容器や搬入方法については管轄の保健所と相談の上、ご対応ください。

- ・ 中北保健所・地域保健課：0551-23-3074
- ・ 峡東保健所・地域保健課：0553-20-2752
- ・ 峡南保健所・地域保健課：0556-22-8158
- ・ 富士東部保健所・地域保健課：0555-24-9035
- ・ 甲府市保健所・医務感染症課：055-244-6750

